

かんでゐない。此の點昔の名のある人は考へ方と云はうか、心構えと云はうかが違つてゐます。

大津山榮子 私是小土佐さんの美しく上品な今日の御姿から昔の事を偲びました。全く洗練されたものです。年を重ねれば藝の益々進むのは當然故、「あのお年で」と云ふのは御師匠さんを侮辱した事になります。私は一人の女性として御師匠さんが百年迄も生きて高座で花々しく死んで戴きたいと思ひます。

中村 只今の普通の壺坂とは大分違ふやうですが、誰方の壺坂ですか。

竹本小土佐 大隅大夫さんが圓平さんの絃で始めて東京で壺坂を出された時にこしらへましたものです。それ故少し堅いと思ひます。その時大隅さんは大邊に咽喉を痛めて醫者に罹つて居られたので誰方にも稽古をつけませんでしたけれど特に私だけは師匠（三代目土佐大夫）の御聲かゝりがありました

ので教へて下さつたのです。それに當時は何しろまだ床へ上げたての事でしから、圓平さんも色いろ工夫をこらされて、時々私の稽古をして居る部屋へ入つて来て、其處はかう直さうなんぞ仰言つたものです。それで私も此の壺坂ばかりは誰でも教へません、教へ

るとつい型が崩れる心配がありますので、それで私の壺坂は大隅大夫さんの初演の時そのまゝの型で御座います。大山、山田 先刻誰方が觀音様の詞がねばると云はれましたけれど、私はあスーとひく處が人間ばなれがしてよいと感じました。

文樂座五月興行

六 字 庵 怠 佛

鬼一法眼三略卷

五條橋の段

牛若丸 源、文

ツレ（常子、津麿）、（隅若、越名）、（呂

賀、綾子）、（源、文）、三味線（吉彌、

（友造、友平）、（猿二郎、叶太郎）、（鶴

太郎、新太郎）、（友花、清友）、（團作

仙松）、吉左

辨慶 濱

ツレ（松島、南次）、三味線、勝平、（團

伊三、友太郎）、（友三郎、徳若）

（人形役割）

牛若丸 榮三郎、 辨慶 玉市、

これは後れて聞かす

金比羅 花上野 譽碑
御利生

志度寺の段

中（和泉、叶） 次（大隅、廣助）

後（相生、吉五郎）、（織、團六）

△お辻 榮三△森口 玉藏△内記 政龜
△菅の谷 小兵吉△方丈 玉德△圓右衛
門 紋司△十藏 文二郎△數馬 多三郎
△雲竹坊 兵次△念西坊 門次△坊太郎
紋之助△腰元 利男

大隅の源太左衛門は恐らく天下一品
誰も追隨を許さぬだらう、古靱が櫓下
となれば其の次は大隅である次の顔順
は呂、相生、織である。其の頃には吾
等は鬼籍に登録されて居るから其處ま
で氣遣ふには及ぶまいが淨瑠璃革進は
古靱に始まり大隅が花を咲かせ其の次
ぎが收穫といふ段取にならう。それに
しては大隅の藝には何となく素人臭が
ある。是れは三味線の藝術的良心の作
用とハツキリ言切る者もある。偶々大
隅の糸は清二郎に更るといふ話を聞く
糸の更代頻々として女役の定まらぬ
事は名譽でなく不幸であるが嚴として
藝術家たる威信を有つ配偶者を見出し
たい。清二郎よく其の任に當り得るや
否。しつかりせよ。後の織も懸命
で聞ける、京大の劇研部員三四十名太

宰博士の引卒で來場。一同織團六の熱
演に魅せられてあつた。結構は結構ぢ
やが餘り歌舞伎に接近すると未來の櫓
下を棒に振らねばならぬ事がないと誰
が保證する。現實生きた證據に鏡大夫
あり、織大夫たるもの片時も古靱恩師
の傍を放るべからず。角や叶が入座し
たればとて、それは文樂座の補強工作
ではない、況んや古靱師匠に於ておや
恩師古靱の杖となり柱と頼むは織大夫
一人でなくてはならぬ、此の故に歌舞
伎と交通頻繁は恩師のためにあらず、
又斯道革新發展のため益する事なきの
みならず、場合に依りては自己進出の
障害となるなきやを恐れ。前途有望の
新進織大夫に注意を促すのである。人
形は總て無難これで人形改革の要なく
古典藝術で押通すのなら、時代逆航の
最大なる代表物だらう。

大阪地方海軍人事部指導
西亭作詞符・大塚克三舞臺裝置

海國日本魂 十二景

竹本相生大夫、豊竹呂大夫、竹本織大夫
竹本南部大夫、竹本雄大夫、竹本長尾大
夫、鶴澤漁八、野澤吉五郎、鶴澤重送、
竹澤團六、野澤勝芳、鶴澤綱延
△伊東少年使節 紋太郎△原少年使節
文二郎△ローマの使臣 文枝 外三名
△和唐内 玉藏△鳥夷 紋太郎 外六名
△大田次郎右衛門 榮三△山田長政 文
五郎△長政の妻 紋十郎△阪本龍馬 榮三
△中岡慎太郎 紋十郎 △刺客 榮三郎
△廣瀬中佐 榮三△杉野兵曹 紋十郎
△部隊長 文五郎△樫村軍曹 玉藏△司
令官 紋十郎△水兵政龜外五名

繪本太功記

尼ヶ崎の段

中 竹本文字太、豊澤新左衛門

切 豊竹古靱大夫、鶴澤清六

△光秀 榮三△操 文五郎△さつき 小

兵吉△久吉 玉幸△重次郎 文作△初菊

光之助△虎之助 文枝

夕顔棚は越路系の一粒胤、國寶的の
存在なる竹本文字大夫の擔任なれば多
大の興味を以て之れを迎へ待つたので

ある。然るに意外も意外この期待はカラリと裏切られ甚だ淡泊無味で非常に落膽した。三味線には斯界唯一の顔役にして昔色に於て間に於て群を抜ける豊澤新左衛門師が付いて居る。無論端場には端場の掟がある、之れは遵守せねばならぬが寛政十一年太功記初演以來百五十年、豊竹簾大夫の風は其の儘崩れず傳つて居るであらうか。斷言はせざるも中古簾風の精神を忘れ、輕佻華美に流れた事は争ふ餘地のなき所で此の大悲劇を語り、拍手喝采を得ても涙一滴こぼす者なき現實の有様、この責任者は二代目越路大夫なりといふ人もある。それは兎も角丸本尊重家豊竹古靱師がこれを受持たれたるを幸ひ私に麓風還元を心から願つて居たのである。文句は丸本に則り節も振廻さず、吾等の主張と合致せる點が多かつた事を淨瑠璃精神復活振興の爲に慶び尙は將來の努力奮闘を望んで止まぬ。

緊樺一番文字改住大夫の大名を守れ

關取千兩幟 猪名川内の段

おとわ 豊竹呂大夫

猪名川 (駒若大夫改メ) 豊竹司大夫

鐵ヶ嶽 竹本相生大夫、竹本機大夫

大阪屋 豊竹伊勢大夫

呼遣ひ 豊竹千駒大夫、竹本播路大夫、

糸 豊澤仙糸

胡弓 豊澤仙三郎、野澤吉藏、豊澤龍市

△おとわ 紋十郎△猪名川 政龜△鐵ヶ

嶽 門造△大阪屋 紋司△呼遣ひ 兵次

おとわの性格に就ては大に異議ある

も咎めまい。只だ性格の研究を頼んで

置き。何時かおとわらしい人形を聞か

して貰ふ機會を待望する。駒若改め司

の猪名川は十分とは云ひ難きも是から

勉強で立派な獨立大夫に成つて貰ひた

い。織の鐵ヶ嶽無難。これ以外に是非

を云ふべきものなし。只だ仙糸さんに

おとわの養成を頼んで置く。人形では

おとわが第一、殊にアノ髪といひ動き

方といひ申分なかりが猪名川は柔弱過

ぎ。鐵ヶ嶽の顔は玄番の如しせめて力

士らしく拵へられぬものにや、古典に手を觸れてはといふなら、何も改善は出来ない、それは恐らく古典病者の戲言なるべし。改善勇者の門造君、群議を排して現代力士より模型を採りて立派な人形を造れ。至囑々々

神靈矢口渡 頼兵衛内の段

前 竹本南部大夫、鶴澤重造、竹本伊

大夫、鶴澤友衛門

後 竹本伊達大夫、鶴澤友衛門、竹本南

部大夫、鶴澤重造

△お舟 紋十郎△頼兵衛 玉藏△六藏

玉幸△義峰公 文作△傾城臺 光之助

三十年以前堀江新靱大夫の稽古場に

遊べる時、某女義と素義が頼兵衛内を

熱心に練習して居たが實に面白かつた

人形ありて新靱大夫の半ばも興味が起

らぬとはどういふ譯か、此の外題は五

段物で此の場は四段目の切、所は武藏

古今の大才子福内鬼外の作、モット狂

喜する様語れぬもの歟。